

楽しい和竿作りショップ “釣具の kase

短竿テトラ竿編

製作説明書

テトラ竿作り方 かんたんアドバス書

商品は 90%以上仕上がっている半製品となっております。切込み設計をすることなくすぐに製作に取り掛かれます。

No1 込みの調整について

元竿とブランクの込み部分は商品によって若干きつかったり、若干緩かったりします。半製品の状態のため竹やブランクが乾燥によりやや膨張したり圧縮したりするために起こってしまうことがあります。どちらにしても若干のことなので製作には支障ありませんので製作の段階で調整して下さい。込の分部には基本塗装塗ることを想定していますが、あまり厚すぎずに塗って下さい（薄く、で良いです）無垢のままですキツイ場合は、塗装の厚みを考えて穂先部分もしくはグリップ込みの分部をほんの少しペーパーヤスリなどで削ってから行って下さい。（上手くかみ合っている場合はやる必要がありません）

No1-2

塗装を塗った込の部分は、塗装をただけでは入らなくなります。必ず耐水ペーパー&コンパウンドで表面を磨いてから込み具合を確かめて下さい。（この時に蠟燭の蝋を込み幅に塗ると入りやすくなります。）※きつくなってしまった、緩くなってしまった場合は、下の項目を参考に調整して下さい

No1-3 きつい場合

ブランクを耐水ペーパーで # 400～ # 1000 を利用して少しずつ削って合わせて下さい。

*ピッタリの場合でも塗装を塗る場合はその塗料の厚みも考えて同じように行なって下さい(ブランク下部の面取りをすると入りやすくなります。注：やりすぎないように)

※込幅に塗装を塗った後からきつくなってしまった場合も同じやり方ですが、使用するペーパーヤスリの粗さなどは違ってきます。また、コンパウンドなども使用します。

No1-4 緩い場合

塗装の厚みで調整して下さいその程度です(塗装をすると大体かみ合います)注意；塗装の塗り方にもよります。※厚すぎてしまった場合はきつい場合と同じように合うように調整して下さい。

【穂先の込み幅について】

約5cm程度となります。

※黄色いテープもしくは線が引いてあります。

【重要】

穂先込みの長さにプラス5mm～10mm幅に糸を巻いて下さい。これは穂先が抜け落ちないためのストッパーにするためです。





塗装について

漆やウレタンなどを使って好きな色で塗って下さい

竹の塗装は樹脂系の塗料がお勧めです。(漆やカーシュー)深見みができます。

穂先は特にどんな塗料でも問題はありませんが塗料によってメリット・デメリットがあります。

本格和竿作りなら、塗装はすべて漆で行います

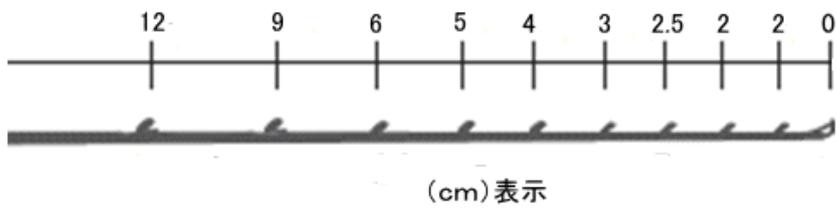
和竿と洋風ロッドを混ぜたハイブリット使用ならウレタン塗料でも OK です

ガイドの取り付け方

すべての塗装が終わったらリールシートとガイドの取り付け作業となります。糸で止め終わった後に漆・エポキシコーティング剤・ウレタンコーティング剤どれかを使ってしっかりとコーティングします。漆を使用の場合は数回塗って糸目を消してから磨きをかけてまた塗って磨くを繰り返して形を整えながらコーティングしていきます。※ウレタンもエポキシも筆塗りの場合は基本同じです。

(工具としてハンドロッドラッパーや FMM2 フィニッシングモーターなどがあると便利で綺麗に仕上がります)

テトラ用穂先 600mm



リールシーとの取り付け方

リールシートはすべての塗装が終わったら取り付けに入ります。

No2-1 グリップ(一段目)が短い場合

中心もしくは中心よりやや前の位置となります。

No2-2 グリップ (一段目) が長い場合

製作構想にあわせて適した場所に設置して下さい

塗料の形態・メリット・デメリット

本漆→値段が高い・かぶれる・湿度管理が必要となりますが独特な厚み・色・伸びがあるので独特な高級感ができます

新漆（カーシュー系当店販売の漆もこのタイプです）使いやすい・色々な色がある・そのまま自然乾燥で OK 大概の人はかぶれない。完全乾燥は 36 時間

ウレタン→透明度が高いのでスレッドの色がほとんどそのままの色で仕上がります。また、乾きが早いので短時間で次の製作に取りかかれます。ただ、漆に比べて中々厚みがでない。糸目を消すまでにはかなり重ね塗りが必要・購入が難しいスプレー缶は値段が高いので顔料をベースとする混合ウレタンを使うのが良いでしょう。

(当店に販売あります。ウレタンバーニッシュ&ウレタンペースト又はウレタン EX&ウレタンペースト))

エポキシとウレタン系の色合いは同じで透明度が高い・エポキシ系は漆と同じく厚みがでます。(硬化 24 時間位です) 漆ほど回数を塗らなくても厚みがでるので作業は早いですが、ガイドやリールシートなどを止めるためのもコーティング剤なので塗装にはあまり適さしません。※ウレタンをガイド止の際のコーティングに使用する場合は粘土調整にもよりますが一度に厚みはでません、数回塗りとなります

漆の色

本透明→クリアー 透明→梨の皮のような色 すき色→紅茶色

漆の場合は、クリアー系の色でもすべて濁す感じとなります。透明系を利用した色の出し方もありますが、最終的に糸目を消してしまうやり方なら下糸は特に何色でも構いません
ウレタン・エポキシ系はスレッドそのままの色をだすことができますが、完璧に下地スレッド色をだすためには特殊な塗料などが必要となります。(そのままでもほぼ同じ感じにはでます。)

製作について(漆を使ったやり方)

糸を巻いた部分には漆を 3 回から 4 回塗って糸目が消えたら 1 回目の磨きをかけ凹凸を無くします。(耐水ペーパー #600~1500 を用意する) そしたらまた塗り、次に乾いたら磨きをかけます。後はこの作業を綺麗になるまで繰り返します。グリップ部分や穂先については 1 回目の塗装が終わったら同じく磨きをかけます。次に 2 回目の塗装に入ります。2 回目の塗装が乾いたら同じように磨きをかけこの作業の繰り返しとなります。(穂先については 1 回目の塗りでは塗装をはじめてしまい上手くのらないので上手く乗せるには下地処理剤(フェザー)などを使いますが、その辺りのテクニックは、今回は省略させていただきます。



これで完成となります。

今回こちらでご紹介した内容はこの半製品を使って製作するにあたりかんたん製作の流れです。細かいテクニックはまだ多くありますが、ご紹介には中々しきれないため今回はこの程度でお許し頂きたいと思えます。製作にあたってはどれが正しかということはなく日々の経験と勉強で物凄く上達していくことと思えます。これを機会にまたチャレンジしてみたくなった時にはまた当店をご指定いただければ嬉しい限りです。
この度は御利用いただきありがとうございました。